

## 今週のメニュー

■ [トピックス](#)

◇今年「世界化学年」 – 日本化学工業協会の取組み – (1)

一般社団法人 日本化学工業協会 井上 歩

■ [随想](#)

◇古代ヤマトの遠景 (60) – 【倭の五王問題 (1)】 –

信越化学工業 (株) 木下 清隆

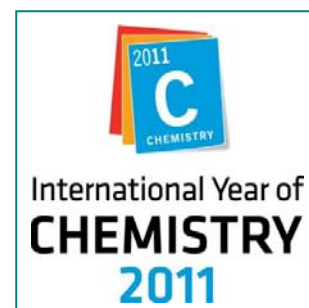
■ [編集後記](#)

## ■ トピックス

◇今年「世界化学年」 – 日本化学工業協会の取組み – (1)

一般社団法人 日本化学工業協会 井上 歩

早いもので、今年も11月と12月を残すだけとなりました。ご存知のように、今年「世界化学年」ですが、東日本大震災と福島第一原発の事故の影響で、日本での取組みの多くが夏以降にずれ込んでしまった感があります。[日本化学工業協会](#) (以下、日化協) でも、10月~12月に大きな3つの取組みが続きます。これらも含め、[日化協の世界化学年](#)へのこれまでの取組みと今後の取組みをご紹介します。



ご存知の方も多いかと思いますが、2008年末に開催された国連総会で、キュリー夫人のノーベル化学賞受賞から100年目にあたる2011年を「世界化学年」(International Year of Chemistry : IYC2011) とすることが決まりました。

統一テーマ “Chemistry-our life, our future” のもと、

1. 化学に対する社会の理解増進
2. 若い世代の化学への興味の喚起
3. 創造的未來への化学者の熱意ある貢献への支援
4. 女性の化学における活躍の場への支援

等を目的に、世界各国・地域の化学産業や学会が連動して、化学に関する啓発・普及活動に取り組む年にしようというものです。

日本では、2010年8月に、2001年のノーベル化学賞受賞者、野依良治理化学研究所理事長を委員長とする「世界化学年日本委員会」を発足させ、我が国における世界化学年への取組みを推進することになりました。具体的には、日本ではこれまでも化学関係の学協会、大学、産業界などの諸団体が、この趣旨・目的に沿った活動を長年にわたって積み重ねてきていましたので、各団体がそれらを継続発展させ、世界化学年の活動として取組んでいくというものです。[「世界化学年日本委員会」のウェブサイト](#)で、日本での世界化学年の取組み状況を見ることができますが、11月1日現在、123件の取組みが登録されています。

このような状況の下、日化協では、

1. 社会一般への「世界化学年」の周知
2. 会員企業・団体への「世界化学年」の周知と活動支援
3. 「子ども化学実験ショー」など、日化協自体の取組み等の活動を進めていますので、以下概要をご紹介します。

まず、“社会一般への「世界化学年」の周知”ですが、新聞各紙の世界化学年特集への広告の掲載や企画への協力を行いました。3月の毎日新聞「理系白書『化学の力が世界を変える』」、4月の読売新聞世界化学年特集「化学がつくる私たちの生活2011」、8月には、日本経済新聞「化学が切り開く明日の社会」、日刊工業新聞の世界化学年企画、化学工業日報の世界化学年企画で、広告掲載、企画協力、会長インタビュー等、それぞれ形は異なりますが、世界化学年の紹介を行いました。

また、“会員企業・団体への「世界化学年」の周知と活動支援”では、「世界化学年メルマガ」を月1回発行し、世界化学年に関連するイベント情報や化学にまつわるちょっとした話題提供などを行っています。

さらに、会員企業・団体が世界化学年のロゴを使った活動に取組みやすいよう、会員企業・団体の実験教室や工場見学会、講演会などについては、日化協が一括してロゴ使用申請するシステムをとっています。このシステムを利用して登録されている活動は、11月1日現在、16企業・団体の76のイベントですので、先の123件と合わせ、日本では、実に199件の活動が世界化学年の取組みとして登録・実施されていることとなります。

さて、日化協自体の取組みですが、世界化学年の目的の中の「化学に対する社会の理解増進」と「若い世代の化学への興味の喚起」という観点からの取組みとして、[「子ども実験ショー2011～世界化学年スペシャル～」](#)、「化学工業日報社 世界化学年記念シンポジウム・講演会」への協力、[「エコプロダクツ展」](#)への出展をご紹介します。

(「日化協自体の取組み」の詳細は、次号(11月17日発行)の随想でご紹介いたします。)

## ■ 随想

### ◇古代ヤマトの遠景(60)－【倭の五王問題(1)】－

信越化学工業(株) 木下 清隆

五世紀を特徴付ける最も大きな問題は、「倭の五王問題」といえよう。倭の五王とは、中国南北朝時代の南朝宋に朝貢した五人の倭王の事で、その記録から彼らが百済・新羅・任那等かつての「韓」地方の支配権を何度も宋朝に確認していたことが分かっている。

応神天皇に始まる「応神王家」は、その始まりが四世紀の末で、終わりが六世紀の初頭なので、正に五世紀の王家ともいえる。この王家の一世紀はまともな国内史料がほとんど無く、国内で何が起きていたのかは全くといっていいほど分っていない世紀である。

本稿では、百済救援問題に端を発して西国を中心とした内戦が勃発し、戦闘が続いた世紀だと考えているが、『古事記』『日本書紀』のどこをみても、そのような状況を窺わせるような記述は全く見あたらない。だから、この時代は国内が安定しており、このことから倭国は朝鮮半島に侵攻して、その権益確保に努力していた、そのことを裏付けるのが倭の五王の記録である、といった通説が現在の大勢となっている。果たしてそうなのかが以下の内容である。

そこで、先ず倭の五王の宋書における記録がどのようなものであるのか、その概要を紹介することにしたい。各王の朝貢記録を年代順に列記すると次のようになる。

( )は宋暦

四二一（永初二年）倭王讃、朝貢して安東將軍・倭国王に叙爵される。

四二五（元嘉二年）倭王讃、司馬曹達を遣わして国書と信物を献上する。

四三〇（元嘉七年）倭国王〔讃？〕遣使朝貢する。

四三八（元嘉十五年）讃死して弟珍立つ。倭王珍、遣使朝貢す。自ら使持節、都督倭・百済・新羅・任那・秦韓・慕韓六国諸軍事、安東大將軍、倭国王と称して、除正を求めるが、安東將軍・倭国王に任じられる。また倭王の臣下、倭隋ら一三人に、平西・征虜・冠軍・輔国の將軍号の除正を求め、認められる。

〔注：除正は叙正・叙位に同じ〕

四四三（元嘉二十年）倭国王済、遣使朝貢し、安東將軍・倭国王を授かる。

四五一（元嘉二八年）倭国王済、使持節、都督倭・新羅・任那・加羅・秦韓・慕韓六国諸軍事が加号され、安東大將軍に進号された。また、倭王の臣下二十三人が申請どおり軍・郡〔將軍号と郡太守号〕を除正された。

四六〇（大明四年）倭国〔済？〕遣使朝貢する。

四六二（大明六年）済死す。世子興、遣使朝貢し、安東將軍に除せられる。

四七七（昇明元年）倭国王〔武？〕遣使朝貢する。

四七八（昇明二年）倭王武、自ら使持節、都督倭・百済・新羅・任那・加羅・秦韓・慕韓七国諸軍事、安東大將軍、倭国王と称し、遣使して上表し、自称の開府儀同三司と他の官爵の除正を求める。百済を除かれ、使持節、都督倭・新羅・任那・加羅・秦韓・慕韓六国諸軍事、安東大將軍、倭国王に任じられる。

『宋書』に残されている記録は以上のようなものであるが、この中の用語の意味は次のように理解されている。



履中天皇陵  
(大阪 堺)



仁徳天皇陵  
(大阪 堺)

※倭王讃は履中天皇又は仁徳天皇と考えられている

安東將軍：中国宋王朝時代の軍事関係の將軍号には多くの称号・階級があり、これらは大きく第一品から第八品までに分けられている。この中に安東・安西・安南・安北の四將軍号があり、これらは四安將軍として第三品に分類されている。この第三品の中には他の多くの將軍号が分類されており、それらの主要なものを序列の高いほうから列記すると次のようになる。

(高) 四征將軍、四鎮將軍、中軍將軍、鎮軍將軍、撫軍將軍、  
四安將軍、四平將軍、左・右將軍、前・後將軍、征虜將軍、  
冠軍將軍、輔國將軍、竜驤將軍 (低)

更に各順位において、大將軍>將軍の関係があり、大將軍号は第二品に分類されている。宋から見て倭国がその東方にあることから、安東將軍を授与されたと考えられるが、このようなランク付けから見ると、安東將軍は中位の將軍号であることが分かる。五王の中で安東將軍より一ランク上の安東大將軍号を受けたのは済と武のみである。倭王讚が安東將軍号を受けた時期の前後に、高句麗王は征東大將軍に、百済王は鎮東大將軍に叙せられていることから、宋王朝はこれら諸国よりも倭国を一・二段下に見ていたことになる。

<sup>じしせつ</sup>使持節：皇帝大権の一部（賞罰権など）の委譲を意味する節を授与されることを示す官号で、官爵の格の高さを表す。

<sup>ととく</sup>都督…諸軍事：都督とは軍事を司る官名、…に示される範囲での軍事統括権。

従って、都督倭・新羅・任那・加羅・秦韓・慕韓六国諸軍事とは、倭国以下六ヶ国の軍事統括権を意味することになる。

平西・征虜・冠軍・輔國：これらの將軍号は安東將軍の項に記載したように、第三品に分類されている將軍号である。序列的には安東將軍号より下位にあるが同品であることは重要である。元嘉十五年(四三八)に倭王珍が、臣下十三人についてのこのような將軍号を宋王朝に申請し、これが認められているということは、倭王と殆ど同列の豪族達がいたことを示している。

秦韓・慕韓：その位置は特定されていないが、慕韓は全羅南道の榮山江一帯と考えられている。秦韓については、かつての辰韓の一部ではないかと思われる。

これらの記録はほとんどが、倭王の官爵の授与問題に関する記述であることが分かる。極めて特殊な用語が並んでいるため分かり難いが、これらの官爵を「肩書き」と理解すれば、倭王達は肩書きを欲しがったということになる。始めは宋皇帝の賜与するものを黙って受けていたが、途中からもっといいものが欲しいと言い出している。

なぜ、そのような要望を出したのかについては、それなりの理由があったと考えられるが、このような宋との遣り取りから、倭国内の動向が垣間見えてくる。その解釈は次回以降に回すことにする。

(つづく)

前回：[「古代ヤマトの遠景」\(59\) - 【応神王家の誕生\(2\)】 - 「古代ヤマトの遠景」: バックナンバー](#)



## ■ 編集後記

先週、東京ラーメンショー2011で東北大震災の被災地・復興支援として、岩手「釜石ラーメン」、宮城「ブタみそらーめん」も出展するとテレビ放映していたのでぶらりと出かけてみました。駒澤大学駅からの途中で季節外れの「サクラ」を見ながら歩くこと15分、駒沢公園中央広場でチケットを<sup>うーぶーしん</sup>買うのに30分、復興支援の気持ちからチケット3枚購入、目的の五福星の「ブタみそらーめん」に並ぶこと90分、ささかまぼこ「がんばっぺ女川」と熟玉をトッピングで追加購入し、漸く堪能する事が出来ました。ラーメンを食べるのに2時間並んだのは初めてでした。「ブタみそらーめん」は震災直後にも被災地で作り続け皆さんに振舞って元気を与えたそうです。野菜たっぷり酒粕スープ、オリジナルのシルク麺でしたが、非常に身も心も温まるラーメンでした。本売り上げの一部は、復興支援に向けられるそうです。残りの2枚のチケットは？少しは貢献したかな。(薩弘)



## ■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 東 幸次

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL [info@vec.gr.jp](mailto:info@vec.gr.jp)